

構造特記仕様書

2022年度版

51 一般事項

選択項目は○印を適用し、●印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の優先順位は下記による。
1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

○鉄骨工作標準図

●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

●鉄骨コンクリート構造標準図

●高強度せん断補強筋施工仕様書

4) 仕様書

(※公共建築協会 ●日本建築家協会)

5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6 (最新版とする)

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に(※含む ●含まない)

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ○構造図 ※設備図)による。

1-7

その他

52 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート			
X	●ルート1	○ルート1-2	●ルート2	●ルート3
Y	●ルート1	○ルート1-2	●ルート2	●ルート3

2-2

鉄筋の継手(定着については設計図若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
● 日本建築学会 JASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
● 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができると。

53 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ● 埋入良土(埋戻し土は30cm毎に軽圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ● 埋入良土(盛土は30cm毎に軽圧締固めを行うこと)
残土処分 ● 場内地均し ※ 場外搬出処分(※ 自由 ● 指定場所)

54 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場 所		捨てコンクリート厚さ	注1) A : 砕 石 B : 割栗石	厚 さ
基 礎	独立・布	※ 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	※ 60 ・ 100 ・ 150 ●
	ベタ	※ 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	※ 60 ・ 100 ・ 150 ●
基礎梁		※ 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	※ 60 ・ 100 ・ 150 ●
土間スラブ		※ 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	※ 60 ・ 100 ・ 150 ●
土間コンクリート	屋内	※ 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	※ 60 ・ 100 ・ 150 ●
	屋外	● 50 ・ 60 ● 100	※ A ● B	● 60 ※ 100 ・ 150 ●

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。

4-2

設計地耐力 長期 300 kN/m2 短期 600 kN/m2 終局 kN/m2
地耐力載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない

4-3

地盤改良
○ 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ● ソイルセメント工
● セメント系固化材投与 ● 圧密排水工法
[● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験] ● 行う (箇所) ※ 行わない
[● 六価クロム溶出試験] ● 行う ※ 行わない

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1) 杭種
● FH杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● SC杭 t mm ● ● ● ●
● PRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● IV種
● 鋼杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● 鋼管杭
2) 工法
● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
● 埋込み工法 ● プレポーリングセメントミルク注入工法
● プレポーリング拡大根固め工法 (認定工法)
杭周固定液 ※ あり ● なし
● 中掘拡大根固め工法 (認定工法)
● 回転掘根固め工法 (認定工法)
● 回転杭工法
先行掘削 ※ あり ● なし
● Hyper- MEGA工法 (認定工法)

3) 杭種、設計耐力、本数表

杭種 (掘底部) mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()					
()					
()					
()					

4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強
● かご筋 ● スタッブ溶接 ● 杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
1) 工法
● アースドリル工法 ● 掘削アースドリル工法
● リバース工法 ● オールケーシング工法 (● ペント工法 ●)
● 剛工法 ●
2) 杭種、設計耐力、本数表 (掘底部は施工径を示す)

杭種 (掘底部) mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()						
()						
()						
()						
()						

3) 杭先端深さ ● GL- m ● 杭リストによる ● 杭状況による
4) 孔壁測定 (2 方向)
※ 行う (● 全数 ● %) ● 行わない
5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメントB種)
鉄筋 ● D 以下 SD295A ● D 以上 SD345
● D 以上 SD390
鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490
4-6 杭打地業共通事項
1) [● 試験杭 ● 試験掘] ● 行う (本) ※ 行わない
2) 載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない
3) SL塗布 ● 行う ※ 行わない

55 鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
○SD295	D 16 以下	※ 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
○SD345	D 19 以上	● 重ね継手 ※ ガス圧接 ● 溶接継手
●SD390	D 以上	※ ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手(継)
●SD490	D 以上	● ガス圧接 ※ 溶接継手 ● 機械継手(継)
● 溶接金鋼		● 重ね継手
● 高強度せん断補強筋	● 1275級 P ● 785級 K ● 685級 U	● フック加工 ● スパイラル ● 工場溶接

5-2

ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数
○ 抜取り検査
○ 引張り試験 (JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本
● 超音波探傷試験 (JISZ39062) ● 熱間叩き試験
1検査ロットにつき ● 30箇所
○ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数で200箇所以内

5-3

溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書 (2017年) 及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4

梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品 (評定品) を使用する。

5-5

その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ○ ①一般 ● ②地反力を受ける
● ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 l_d の採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効高) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ※ min(D' , l_d) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

56 コンクリート工事

6-1

レディーミクストコンクリート (JIS A5308-2019)
1) セメント ※ 普通 ϕ 45 ϕ セン JISR5210 ● 高炉セメントB種
● 低熱 ϕ 45 ϕ セン JISR5210
2) 粗骨材 ● 砂利 ● 砕石 ● 高炉 ϕ 5 ϕ 骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径 (mm) ※ 20 ● 25 ● 40
3) 設計基準強度 (N/mm2) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
○ 普通コンクリート
● Fc18 ● Fc21 ○ Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc
● 軽量コンクリート (※ I種 ● 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

4) 土間コンクリート ○ Fc 18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は全体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ○ Fc 15
6) 防水押さえコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
7) かき上げコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)

Fc (N/mm ²)	箇 所	備 考
基礎、地中梁	Fc 24	

6-2 混和材 ※AE減水剤 ○ 高性能AE減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材
注1). 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
6-3

箇 所	基礎、基礎梁	I F	一 般	備 考
スラブ	cm 15	15	15	
水セメント比 %	60	60	60	60以下
単位水量 kg/m ³	185	185	175	185以下
単位セメント量 kg/m ³	270	270	270	270以上

注2). スラブは特記なき限り施工者が決めた監理者に報告する。
6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [○ 塩分含有量 ○ アルカリシリカ反応性] ※ 行う ● 行わない
2) フレッシュコンクリート [○ スラブ ○ 空気量] ※ 行う ● 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う ● 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ※ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ調査 (温度応力解析) ● 行う ● 行わない
6) 単位水量測定 ○ 行う ● 行わない
6-5 調査 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級() は耐久設計基準強度F_d
● 短期 (18) ○ 標準 (24) ● 長期 (30) ● 超長期 (36)
調査管理強度 F_m=Max (F_c, F_d) + S S=3~6
材齢28日の調査強度Fは下記の式で満足するものとする。
F_d≥F_m-1.73σ F_d≥0.85F_m-3σ
6-6 せき板及び支柱の在置期間 (普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下	
コンクリートによる場合	15 ℃ 以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃ 以上	5 日	25 日	
	0 ℃ 以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合	5N/mm ²	注) 0.85F _c または 12N/mm ²	注) 設計基準強度	

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。
住宅性能表示 劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 2-7がかり厚さ
が変わるゐ、かぶりを訂正又は、設計図に明示する
6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書 (JASS5等) による

57 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し タイ	内 ダ イ	大梁	ブレース	小梁、 トラス	端 部
一般構造用圧延鋼材	○ SS400 ●				●		●	JIS G3101
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A ● SN400A ●							
建築構造用圧延鋼材	● SN400B ○ SN490B ● SN400C ○ SN490C			●				JIS G3136
一般構造用角形鋼管	○ STKR400 ● STKR490 ○ BCR295 ●	●						大臣認定
冷間成形角形鋼管	● BCP235 ● BCP325							
熱間成形角形鋼管	● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C							
一般構造用炭素鋼管	● STK400 ● STK490 ● STKN400 ● STKN490							
一般構造用軽量形鋼	○ SSC400 ●						●	
建築構造用圧延棒鋼	○ SNR400B					●		

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類		使用 箇 所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
J15形高力ボルト	○ F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T	屋内環境

7-3

普通ポルト、アンカーボルト
1) 材質 ○ SS400 ● SS490 (M 以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABR400 ● ABM490 (ABMはM24以上)
2) 大臣認定社印 (メーカー仕様による) ○ 使用する ● 使用しない
7-4 頭付きスタッド

径	長 さ (mm)					使用 箇 所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●					
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●					
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●					

7-5

溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ● スカラップ工法
7-7 継手

	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接	※ 高力ボルト ● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接	※ 高力ボルト ● 現場溶接

7-8

溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全鋼協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はA#検定の有資格者が行うとする指定を ※ 行う ● 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ※ 行う ● 行わない
但し、代替タブのA#検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。
7-9 デッキプレート (単位 mm)
1) 床用 高さ ● 板厚 ●
2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●
3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形版 タイプ
4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27
7-10 塗装 (工場塗 ※ 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン ● ブラスト
2) 下塗り用塗料

適用	塗 料	種 別	標準厚
屋外 室内			
※ ※	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	※ 1種 ● 2種 30 μm
● ●	水系さび止めペイント	JASS18 M-111	30 μm
● ●	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	● 1種 ● 2種 40 μm
● ●	有機ジンクリッチプライマー	JISK5552	● 2種 15 μm
● ●	構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ● 用いる ○ 用いない

7-11

溶接部の検査 (受入検査) ※ 行う ○ 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者 (元請) との直接契約による。
2) 第三者検査機関は (社) 日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6 鉄骨精度検査基準」の取扱いを準ずる。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii. 大きさ30mmのサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合個数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30箇所のサンプルを採取検査する。総計60箇所のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b) 現場溶接の場合
i. 全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」による。
7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと
国土交通省大臣認定 (グレード)

S	H	Ⓜ	R	J	

58 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1

コンクリートブロック
1) 種類 ● A種 ● B種 ● C種
2) 厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2

ALC パネル
1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
2) 厚さ mm ● 75 (80) ● 100 ● 120 (125) ● 150 ● 175
3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

8-3

押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ● ●

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4

PCa板
1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根
● PCa板単独 厚さ mm ● ●
● 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

2) 外壁 厚さ mm ● ●

注記

変更

月、日

令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業
花と動物ふれあい広場大規模改修工事

阿波設計事務所 三重支店

一級建築士登録 第139711号
清水 洋一

図面名称

構造特記仕様書

日付

校閲

製図

縮尺

—

図面No.
S/01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2022年度版

1-1
基本事項

1-2
その他

§1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最小径は下表による。

記号	●	×	○	●	○	●	×	○	+	●	×
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最小径 D	11	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47

フックのない場合
フックのある場合
本数に差がある場合
機械式継手表示
ガス圧接、突き合せ溶接

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法曲径(D)
180		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345 SD390	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上 5d以上
135					
90				D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上

鉄筋の種類

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ	
		上段直線 L ₁ 下段フック付き L _{1h}	上段直線 L ₂ 下段フック付き L _{2h}	一般 上端筋 L _a 下端筋 L _b	小梁・床スラブ 上端筋 L ₃ 下端筋 L _{3h}
SD295 (SD345) (-)はSD345を示す	18	45d(50d)	40d	15d	20d
	21	40d(45d)	35d	15d	20d
	24~27	35d(40d)	30d(35d)	15d	20d
	30~36	35d	30d	15d	20d
	39~45	30d(35d)	25d(30d)	15d	20d
SD390 (SD490) (-)は適用外	48~60	30d	25d	15d	20d
	21	50d(-)	40d(-)	20d	(-)
	24~27	45d(55d)	40d(45d)	15d	(-)
	30~36	40d(50d)	35d(40d)	15d	(-)

一般定着の直線 L₂またはフック付きの L_{2h}, L_a, L_b の図

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L_{2h} は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4
継手一般

2-5
鉄筋のフック

2-6
鉄筋のあき

2-7
かぶり厚さ

3-2
主筋の定着

3-3
帯副帯筋

3-4
補助筋

3-5
柱のコンファインド補強

4-1
主筋の継手

4-2
主筋の定着及び余長

4-3
あばら筋副あばら筋

§4 梁

補強する柱は設計図による。(柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。)

○ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。(告示平12年第1463号使用基準参照)溶接継手の場合でも柱面より500以上はなすこと。
○ 定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

○ 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
○ あばら筋の加工は下図①又は②による。
②③⑤⑥⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
○ ⑨⑩は梁成の大きい場合。
○ ①はピッチ2pで交互配置とする。
○ 135°フックは180°フックでも可とする。
○ 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

○ ⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※ 柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。

注記

変更

月 日

令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業
花と動物ふれあい広場大規模改修工事

阿波設計事務所 三重支店
一級建築士登録 第139711号
清水 洋一

図面名称
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

図面 No.
S/02

鉄骨工作標準図 (1) 2022年度版

S 1 一般事項

1-1
基本事項

1-2
その他

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書 1-2-4、5 に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS6 の付則 6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべて mm とする。

S 2 共通事項

2-1
略号

AB	アンカーボルト	BH	組立て H 形鋼
BPL	ベースプレート	CHPL	チェッカープレート
DFPL	ダイアフラム	FB	フラットバー
FPL	フランジプレート	GPL	ガセットプレート
HTB	高力ボルト	RPL	リブプレート
SPL	スプライスプレート	TB	ターンバックル
WPL	ウェブプレート	Wi-9	溶接記号 (S4 参照)

S 3 ボルト接合

3-1
高力ボルト

ボルトの長さ

ボルトの 呼び径	締付け長さに加える長さ F8T, F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

- 1, 特記以外はすべて S10T (トルシア形高力ボルト、上図) 又は F10T とする。
- 2, 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
- 3, ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グライNDER 掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは 1 次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
- 4, 亜鉛メッキボルトの場合は、すべて F8T とする。

3-2
高力ボルト
のピッチ

呼び 径		M 16	M 20	M 22	M 24
ピッチ	孔 径	18	22	24	26
	標準	60	60	60	70
	最小	40	50	55	60
はしあき		e	40 (50)	40 (55)	45 (60)
最小縁端距離	せん断線、手動ガス切断線	28	34	38	44
	圧延線、自動ガス切断線等	22	26	28	32

() 内はボルトが応力方向に 3 本以上並ばない場合を示す。

ゲージ B ₁	千鳥打ちのピッチ b	
	M16, 20, 22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

3-3
形鋼のゲージ

A or B	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ³	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16
60	35		16	125	75		16	65	35	20
65	35		20	150	90		22	70	40	20
70	40		20	175	105		22	75	40	22
75	40		22	200	120		24	80	45	22
80	45		22	250	150		24	90	50	24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55		24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24			
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

* B = 300 は千鳥打ちとする。

** 印の欄の g 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4-1
隅肉溶接4-2
完全溶込み溶接
(突合せ溶接)4-3
部分溶込み溶接

S4 溶接接合

t ≤ 16										16 < t ≤ 40									
記号 W ₁ 脚長 (S) 0 ≤ ΔS ≤ 0.5S かつ ΔS ≤ 5 ΔS = S' - S S = 設計サイズ S' = 実寸サイズ 余盛 0 ≤ Δα ≤ 0.4S かつ Δα ≤ 4										記号 W ₁ 脚長 (S) 0 ≤ ΔS ≤ 0.5S かつ ΔS ≤ 5 ΔS = S' - S S = 設計サイズ S' = 実寸サイズ 余盛 0 ≤ Δα ≤ 0.4S かつ Δα ≤ 4									
t	6 以下	9	12	14	16		19	22	25	28	32	36	40						
s	t	7	9	10	12		11	13	15	17	19	21	24						

断続隅肉溶接の長さ L

L ≥ 108 かつ 40 以上

1) 板厚の異なる場合 (通しダイアフラムは除く)

2.5 以上

クレーンガーダーの場合は、全て 2.5 倍以上の勾配をとる。

2) エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さ ℓ は 35 以上かつ薄い方の板厚の 2 倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より 5~10 mm はなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接接量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。

通し形裏当て金
 5~10 mm

分替形裏当て金
 5~10 mm

隅肉溶接 S = 4~6 mm
1/バス長さ = 40~60 mm 程度とする

3) 開先加工 (下図は参考とする。)

a) スクラップ工法

r₁ r₂

スクラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。r₁ は 35 程度、r₂ は 10 以上とする。
なお複合円は滑らかに仕上げること。
完全溶込み溶接部以外のスクラップは r = 25 程度とする。

b) ノンスクラップ工法

r₁ r₂

機械加工 + ガス切りタイプ

4) 開先形状

小文字は管理許容差 () は限界許容差を示す ※十分な品質管理を行う

記 号	形 状	適用板厚	寸 法	
			アーク手溶接	ガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接
W ₂ MC-BL-1B GC-BL-1B	 裏当て	6~	G 9 ± 2 (+4) (-2)	7 ± 1 (+3) (-2)
			R 2 ± 2 (+3) (-2)	2 ± 1 (+2) (-2)
W ₃ MC-BL-2 GC-BL-2	 裏はつり	6~	a ₁ 35 ± 2.5 (+4) (-2)	35 ± 2.5 (+4) (-2)
			G 7 ± 1 (+2) (-1)	7 ± 1 (+2) (-1)
W ₄ MC-BK-2 GC-BK-2	 裏はつり	16~	R 2 ± 2 (+3) (-2)	2 ± 2 (+3) (-2)
			a ₁ 45 ± 2.5 (+4) (-2)	45 ± 2.5 (+4) (-2)
W ₅ MC-BI-1B GC-BI-1B	 裏当て	3~6	G T ± 2 (+3) (-2)	T ± 2 (+3) (-2)

MC... はアーク手溶接 GC... はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

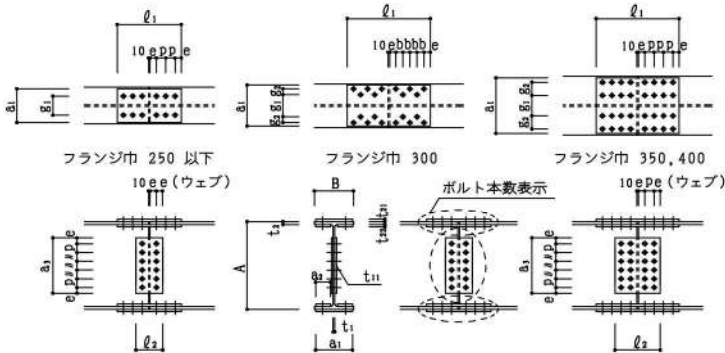
片面溶接 W ₆										両面溶接 W ₇									
12 ≤ t ≤ 40										16 ≤ t ≤ 40									
 45°										 45°									
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40	D = (t - 2) / 2									
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16										
t/4 ≤ S ≤ 10																			

4-4
フレア溶接4-5
その他5-1
継手リスト5-2
小梁仕口ピン接合
A タイプ剛接合
B タイプ

丸鋼等溶接 W_8	軽量形鋼等溶接 W_9

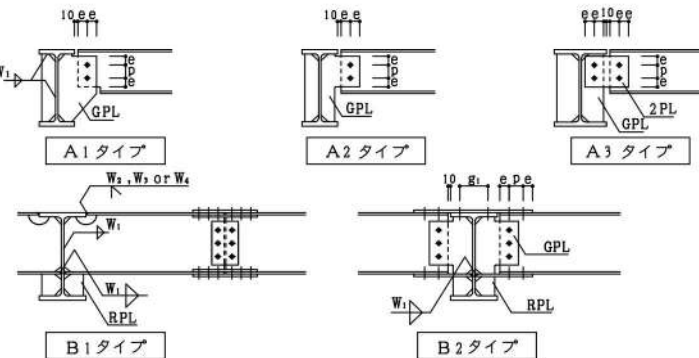
加工工程中及び現場運搬後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

S5 継手



材種	主材	高力ボルト径	フランジ		ウェブ	
			ボルト本数	外側添板 2PL- t ₂₁ × a ₁ × ℓ ₁	内側添板 4PL- t ₂₂ × a ₂ × ℓ ₁	ボルト本数 2PL- t ₁₁ × a ₃ × ℓ ₂
H	A × B × t ₁ × t ₂					
BH	A × B × t ₁ × t ₂					
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x
H	x x x		x x	x x	x x	x x

- フランジ B 面もしくはウェブ B 面で、段差 1 mm を超える場合は、フィラー B を入れて調整すること。
- a₃ は原則として梁成の 2/3 以上確保すること。



- GPL, RPL は材種、版厚とも小梁の WPL と同等以上とする。
- 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

注記

変更

月 日

令和 5 年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業
花と動物ふれあい広場大規模改修工事株式会社 阿波設計事務所 三重支店
一級建築士登録 第 139711 号
清水 洋一

図面名称

鉄骨工作標準図 (1)

日付

校閲

製図

縮尺

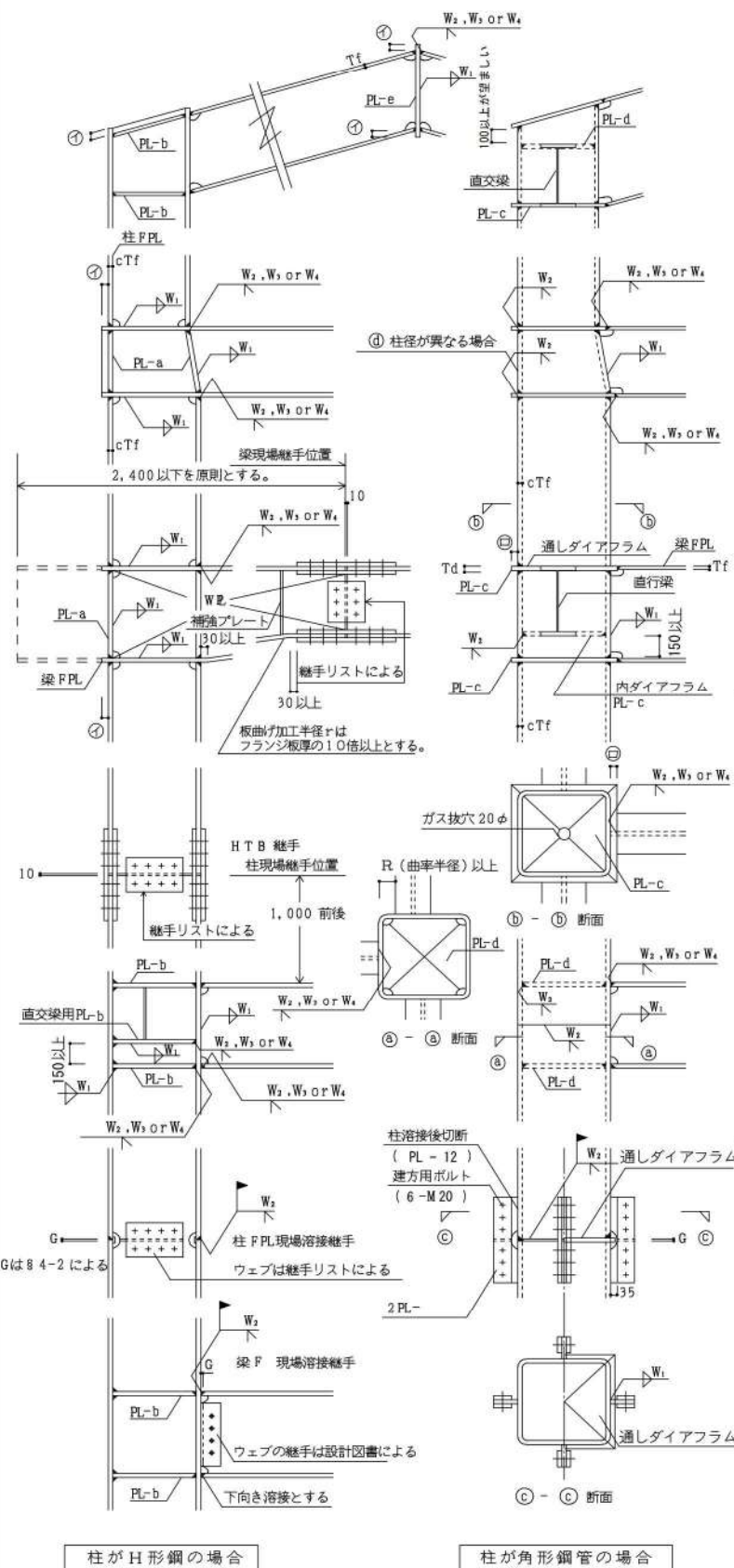
A3 1:100

図面 No.

S/04

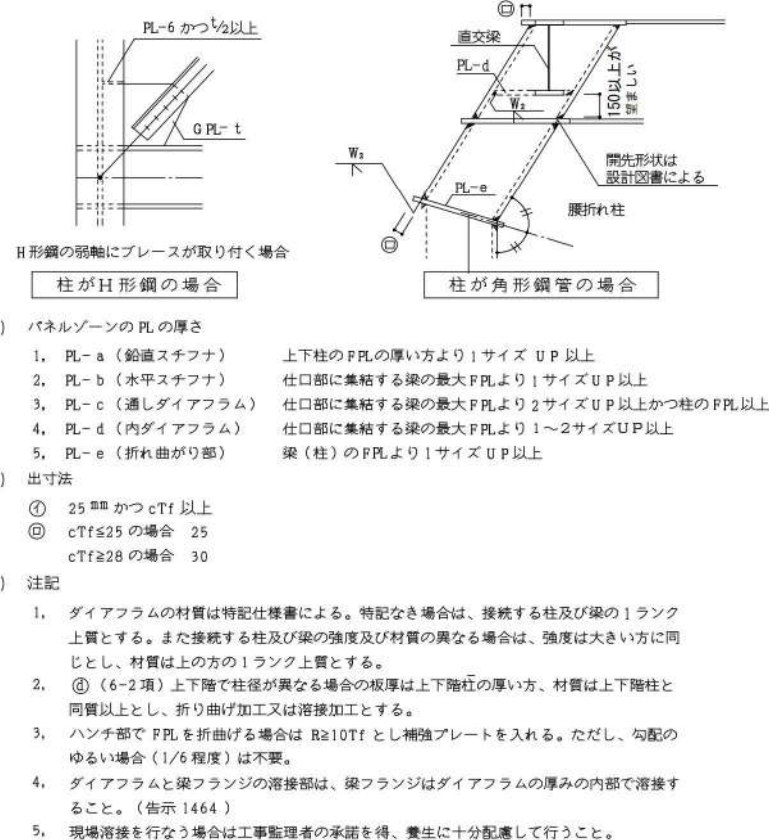
柱梁接合部及び継手

5-5
現場溶接継手



7-1
一般柱脚

8-1
ブレースリスト



A タイプ (主柱)

余長はネジ山3以上

すべて座金付き二重ナットとする

無収縮モルタル流し込み

アンカーフレームを使用する場合は設計図書による

無収縮モルタルの強度はRC柱型のコンクリート強度以上とする。

アンカーボルトの施工に誤差がある場合は台直しはせず右図の様に補強する。

(せん断力を負担させる場合も同様)

B タイプ (間柱等二次部材)

25

無収縮モルタル流し込み

中心塗りモルタル200φ又は200φ以上とする
(Aタイプも同じ)

D16を切断し天端をそろえる
(Aタイプも同じ)

座金

補強PL材質強度はA8, BPL以上

補強PL厚さtはBPL厚さの1/2以上かつ6以上

[illegible]9-4
壁筋の溶接

A タイプ ($\phi \leq 0.1H$)

B タイプ ($0.1H < \phi \leq 0.2H$)

C タイプ ($0.2H < \phi \leq 0.28H$)

D タイプ ($0.28H < \phi \leq 0.4H$)

E タイプ ($0.4H < \phi \leq 0.5H$)

F タイプ

既製品（評定品）を用いた場合

ハイリング、フリードナツ
OSリング等 使用可

1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径 (ϕ) は $0.5H$ 以下とし、そのピッチは 3.0ϕ 以上とする。
(これを満足できない場合は設計者の指示による。)

2. 貫通孔を設ける範囲は右図の 部分を原則とする。

3. 貫通孔が多くある場合は WPL を厚くした (WPL+補強 PL) BH とする。

焼ばきせん溶接 $\phi \approx 300$ 50 以上

デッキプレート受け FB-65x9

部分溶込み溶接

50 以上

○ 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

h, p_1 , p_2 設計図書による。

$h \geq 4.0d$
$7.5d \leq p_1 \leq 300$
$p_2 \geq 5.0d$
$a_1 \geq 40$
$a_2 \geq 100$
$e \geq 40$
$d \leq 2.5t$

A タイプ (標準)

B タイプ (軽微な RC 壁の場合)

C タイプ (ブロック壁の場合)

図面 No.
S / 05



角形鋼管

F値295N/mm²以下

□-150×150 ~ □-300×300 用

(財)日本建築センターによる一般認定「BCJ認定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースパック柱脚工法 設計 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

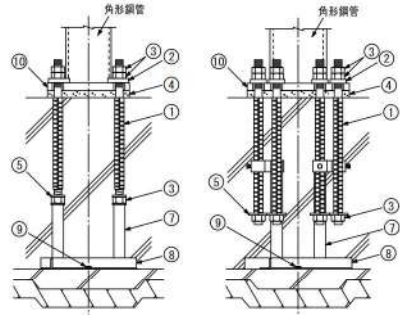
旭化成建材株式会社

TEL03 (3624) 5336 TEL03 (3296) 3515

2019年1月作成

1. 工法概要

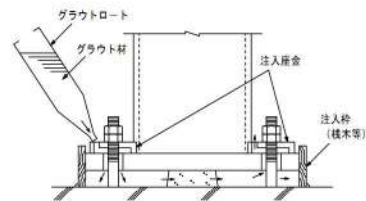
1. 1 構成部材



- 1 アンカーボルト
- 2 注入座金
- 3 Mナット
- 4 ベースパックグラウト(グラウト材)
- 5 定着座金
- 6 テンプレート
- 7 フレームポスト
- 8 フレームベース
- 9 ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- 10 ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記④～⑥は現場状況により仕様異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要



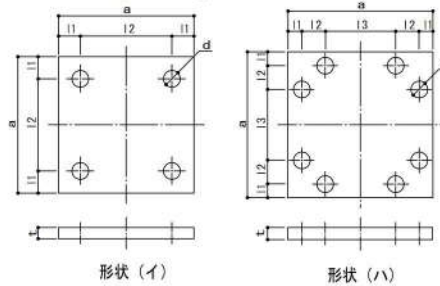
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 TSC295	●

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

●材質
SN490B【JIS G 3136】



3. 3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3. 4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用 アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	SS400
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

適用 アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	
M33	60	173	9	35	SS400
M36	65	178	9	38	

3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び	異形部 呼び名	L (mm)	X	b (mm)	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

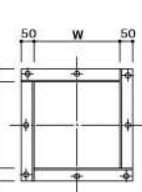
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

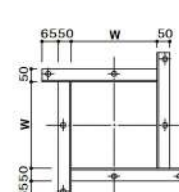
呼び	異形部 呼び名	L	X	基準強度 (N/mm ²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3. 6 フレームベース

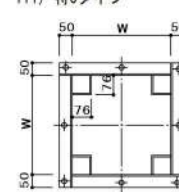
i) Aタイプ



ii) Cタイプ



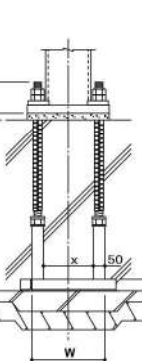
iii) 特Cタイプ



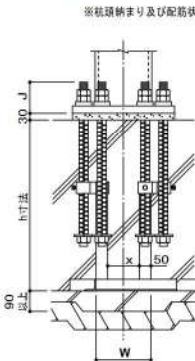
3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型
天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

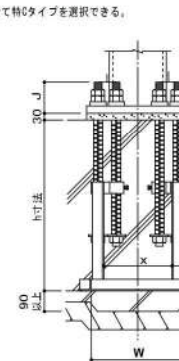
< Aタイプ >



< Cタイプ ※ >



< 特Cタイプ >

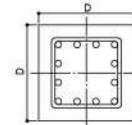


※鉄筋納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、
別紙「ベースパック柱脚工法における
柱型寸法最大・最小値一覧」による。



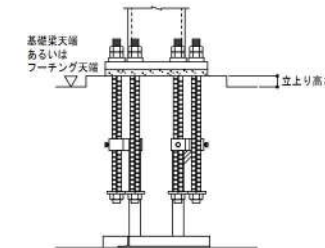
●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度
は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合は、Lシリーズを使用することができる。



5. 工場製作 (溶接)

■組立

●ベースプレートの中心線(ナギキ線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開示標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

項	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔G (mm)		ルート面R (mm)		開先角度α (°)		溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
	縦溶接	6~	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	下向き	
			9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		
	ガスシールド溶接	6~	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	下向き	
			7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		

許容差・記号+0は制約無しを示す。

・2段書きは「鉄骨検査標準」に規定する許容差 (上段: 管理許容差, 下段括弧内: 現場許容差) を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上のベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	予熱なし	予熱なし	予熱なし
低水素系電極アーク溶接	SN490B	t < 32	50℃	50℃	50℃
	SN490B	32 ≤ t < 40	50℃	50℃	50℃
GMAシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし	予熱なし
	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立て
を行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地盤等の柱心を合致させることにより
行い、標準許容差は下図による。

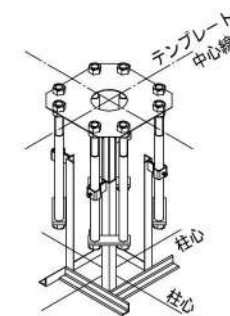


図	柱心	テンプレート 中心線	けがき線	アンカーボルト	e1: 柱心とテンプレートの けがき線との 許容差
					-2 ≤ e1 ≤ 2 基準高さより誤差は -3 ≤ e ≤ 10

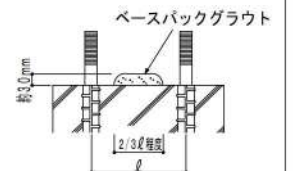
6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースパック
グラウト(グラウト材)を使用し
大きさは右図による。



6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで
1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の
自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2 アンカーボルト据付け及び6. 6 ベースパックグラウトの
注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベース
パック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等
により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理
技術者等による。

注記

変更

月

日

令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業
花と動物ふれあい広場大規模改修工事



阿波設計事務所 三重支店

一級建築士登録 第139711号
清水 洋一

図面名称

ベースパック柱脚工法設計施工標準図

日付

校閲

製図

縮尺

図面No.

S/06

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 花と動物ふれあい広場管理棟建替え工事地質調査

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	No. A	調査位置	三重県多気郡多気町五桂992他	北緯	34° 27′ 58.63″
発注機関	株式会社阿波設計事務所	調査期間	2022年 11月 4日 ～ 2022年 11月 4日	東経	136° 33′ 13.86″
調査業者名	株式会社サムシング 電話 06-6192-3649	主任技師	渋谷朋樹 地質調査技士 登録番号	現場代理人	岩井史郎 地質調査技士 登録番号
コア鑑定者	羽子岡剛 地質調査技士 登録番号	ボーリング責任者	村上寛 地質調査技士 登録番号		
孔口標高	H=71.41m	角	180° 上下 0°	方位	北 270°西 90°東 180°南
総削孔長	7.15m	地盤勾配	水 40° 90°	使用機種	試験機 KR-100HB-2 エンジン NFAD8 ポンプ V5-P

標尺	標高	深度	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験	試験採取	室内位置	削孔月日
(m)	(m)	(m)													
1	70.31	1.10	シルト質砂礫(強土)							○10mm以下部角～面円礫主体。最大粒径は○30mm程度。7～9月12中～粗砂及びやや多い細粒分で見舞。	11.4 1.10	1.000	2.050	地盤改良	
2			粗粒り砂質粘土(強土)							粘土主体。粘土中に細～中砂が多く、○10mm以下部角～粗粒り砂少量、炭植物根少量混入。 $c_u=1.50$ まで無水液照を行い、本位確認される。					
3	66.71	3.10													
4															
5															
6															
7	61.35	7.15													

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

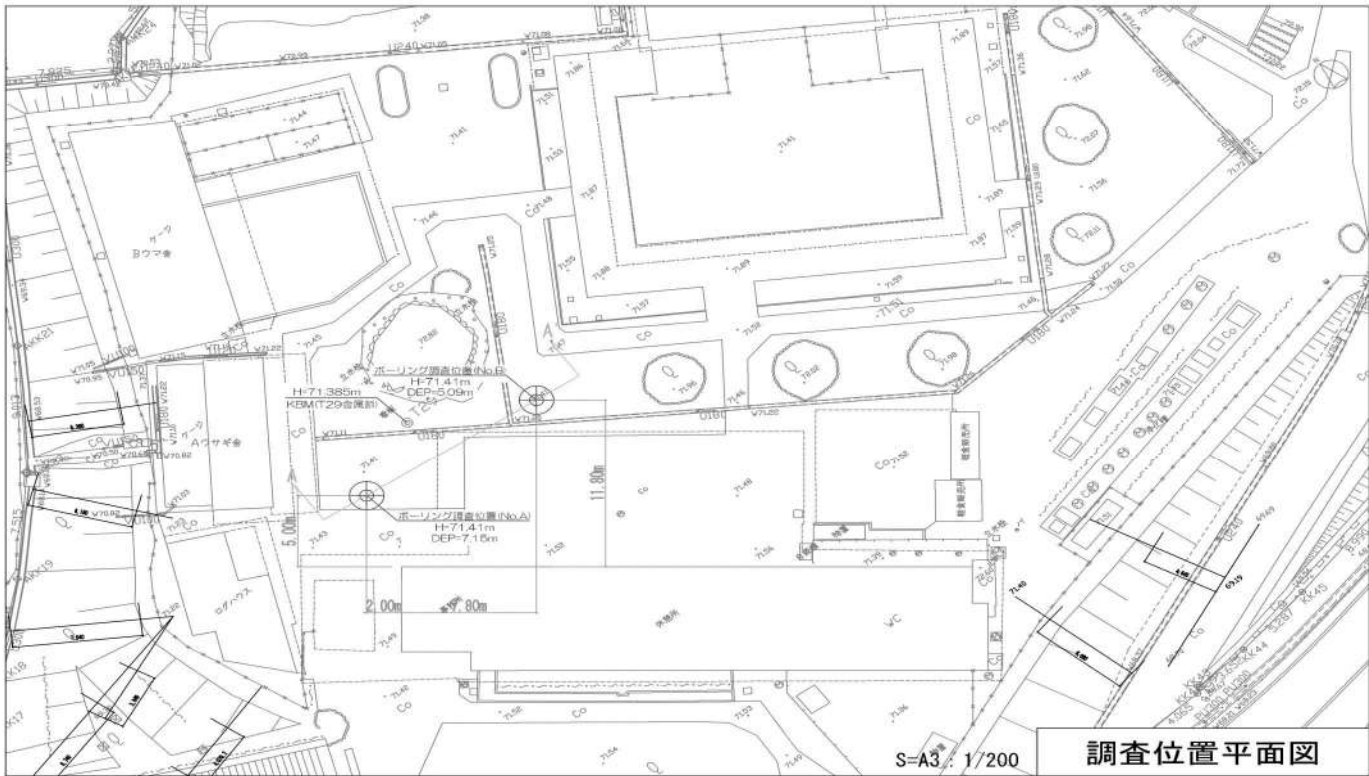
調査名 花と動物ふれあい広場管理棟建替え工事地質調査

事業名 または 工事名

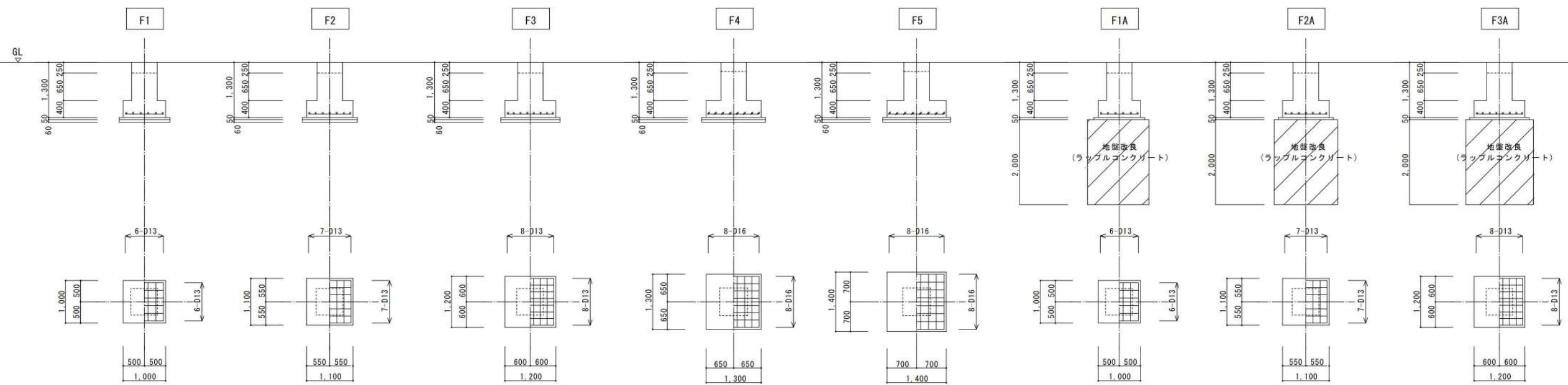
調査目的及び調査対象

ボーリング名	No. B	調査位置	三重県多気郡多気町五桂992他	北緯	34° 27′ 58.57″
発注機関	株式会社阿波設計事務所	調査期間	2022年 11月 4日 ～ 2022年 11月 4日	東経	136° 33′ 14.32″
調査業者名	株式会社サムシング 電話 06-6192-3649	主任技師	渋谷朋樹 地質調査技士 登録番号	現場代理人	岩井史郎 地質調査技士 登録番号
コア鑑定者	羽子岡剛 地質調査技士 登録番号	ボーリング責任者	村上寛 地質調査技士 登録番号		
孔口標高	H=71.41m	角	180° 上下 0°	方位	北 270°西 90°東 180°南
総削孔長	5.09m	地盤勾配	水 40° 90°	使用機種	試験機 KR-100HB-2 エンジン NFAD8 ポンプ V5-P

標尺	標高	深度	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験	試験採取	室内位置	削孔月日
(m)	(m)	(m)													
1	70.31	0.60	シルト質砂礫(強土)							○15mm以下部角～面円礫主体。最大粒径は○30mm程度。7～9月12中～粗砂及び少量の細粒分で見舞。	11.4 1.10	1.000			
2															
3															
4															
5	66.72	5.09													
6															
7															



基礎リスト 1:50

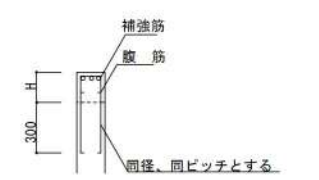


地中梁リスト 1:80 2. 巾止筋はD10#1000とする。

符号	FG1		FG2			FG11		FG12		FG13	
	端部	中央	端部	中央		端部	中央	端部	中央	端部	中央
断面											
上端筋	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22		6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22
下端筋	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22		6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22
スターラップ	□-D13-#200		□-D13-#200			□-D13-#200		□-D13-#200		□-D13-#200	
腹筋	2-D13		2-D13			4-D13		2-D13		2-D13	
備考											
符号											
位置											
断面											
上端筋											
下端筋											
スターラップ											
腹筋											
備考											

Xdt, Ydtは梁天より上筋鉄筋芯までの距離とする。
構造図Y方向を優先する。

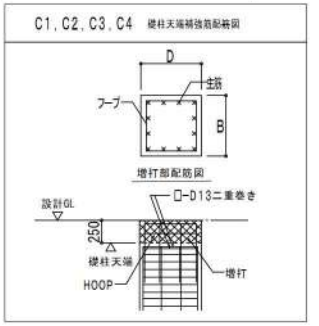
筋	梁Xdt (mm)		梁Ydt (mm)	
	上筋	下筋	上筋	下筋
1	120	120	80	80



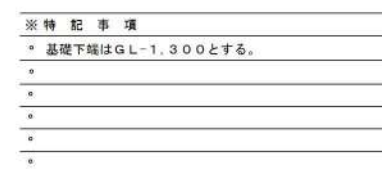
大梁 H = 250 補強筋 腹筋 3-D22

地中梁増打補強筋

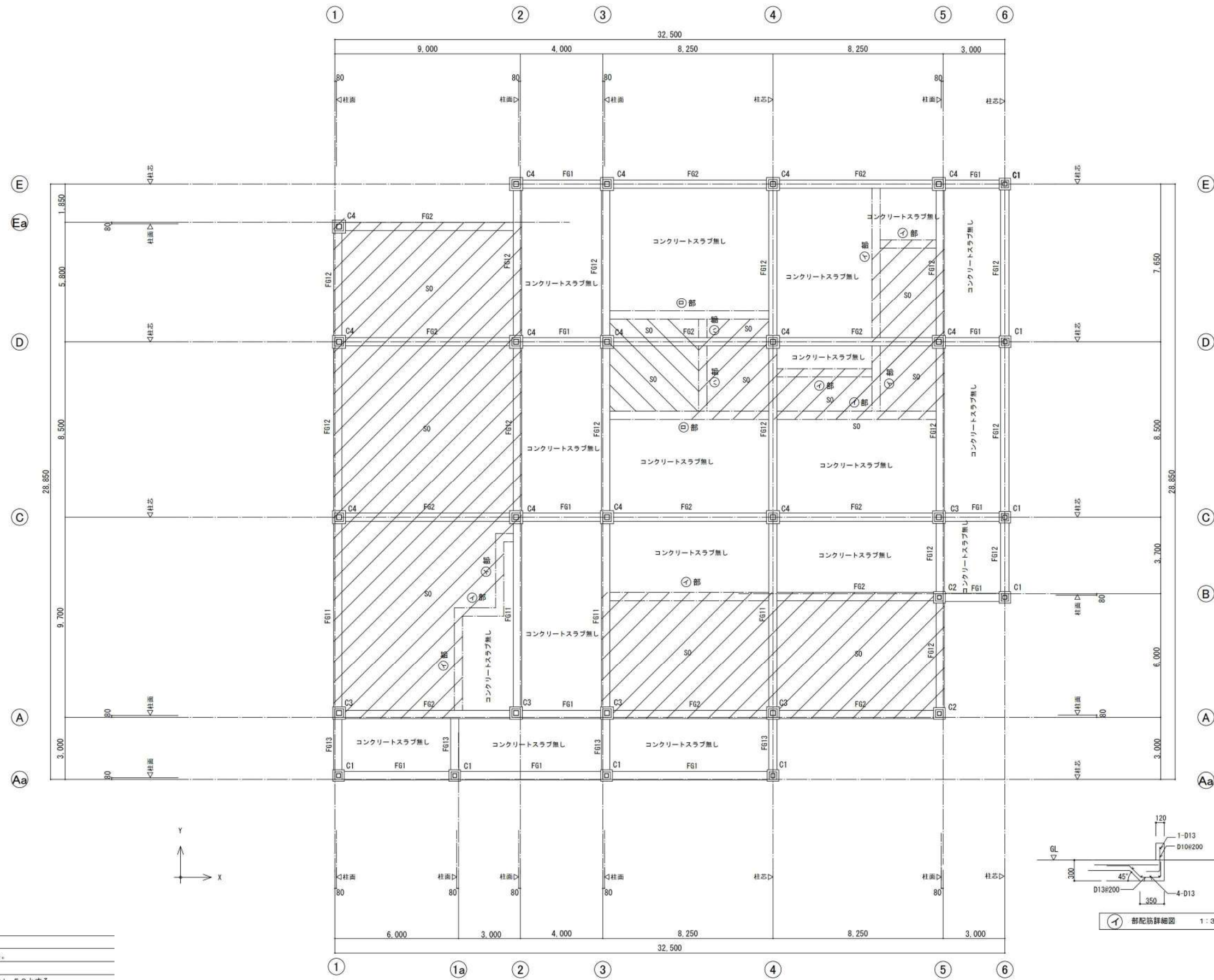
礎柱リスト



配筋		フープ	
C1 B×D= 560×560	16-D13	□-D13#100	
C2 B×D= 560×560	16-D13	□-D13#100	
C3 B×D= 610×610	16-D13	□-D13#100	
C4 B×D= 630×630	16-D13	□-D13#100	

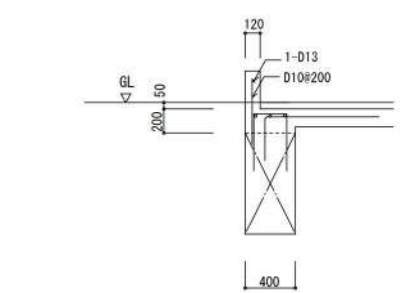


注記 変更	月 日	-	工事名称	令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業 花と動物ふれあい広場大規模改修工事	 株式会社 阿波設計事務所 三重支店 一級建築士登録 第139711号 清水 洋一	図面名称 基礎 伏 図				日付
	-	-				校閲		製図	縮尺	図面No.
	-	-							A3 1:100	S / 09
	-	-								
	-	-								

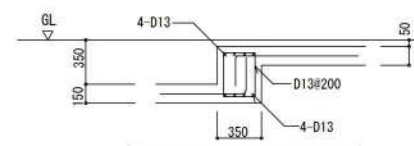


1 階 梁・床 伏 図 1:100 ※見下げ図

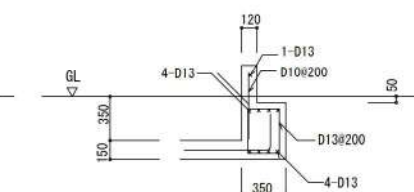
- ※特記事項
- ・ 梁天はGL-250とする。
 - ・
 - ・ 印のスラブ天はGL-50とする。
 - ・ 印のスラブ天はGL-350とする。
 - ・ S Oは土間コンクリート (t=150)とする。
配筋はD10@200シングルクロスとする。



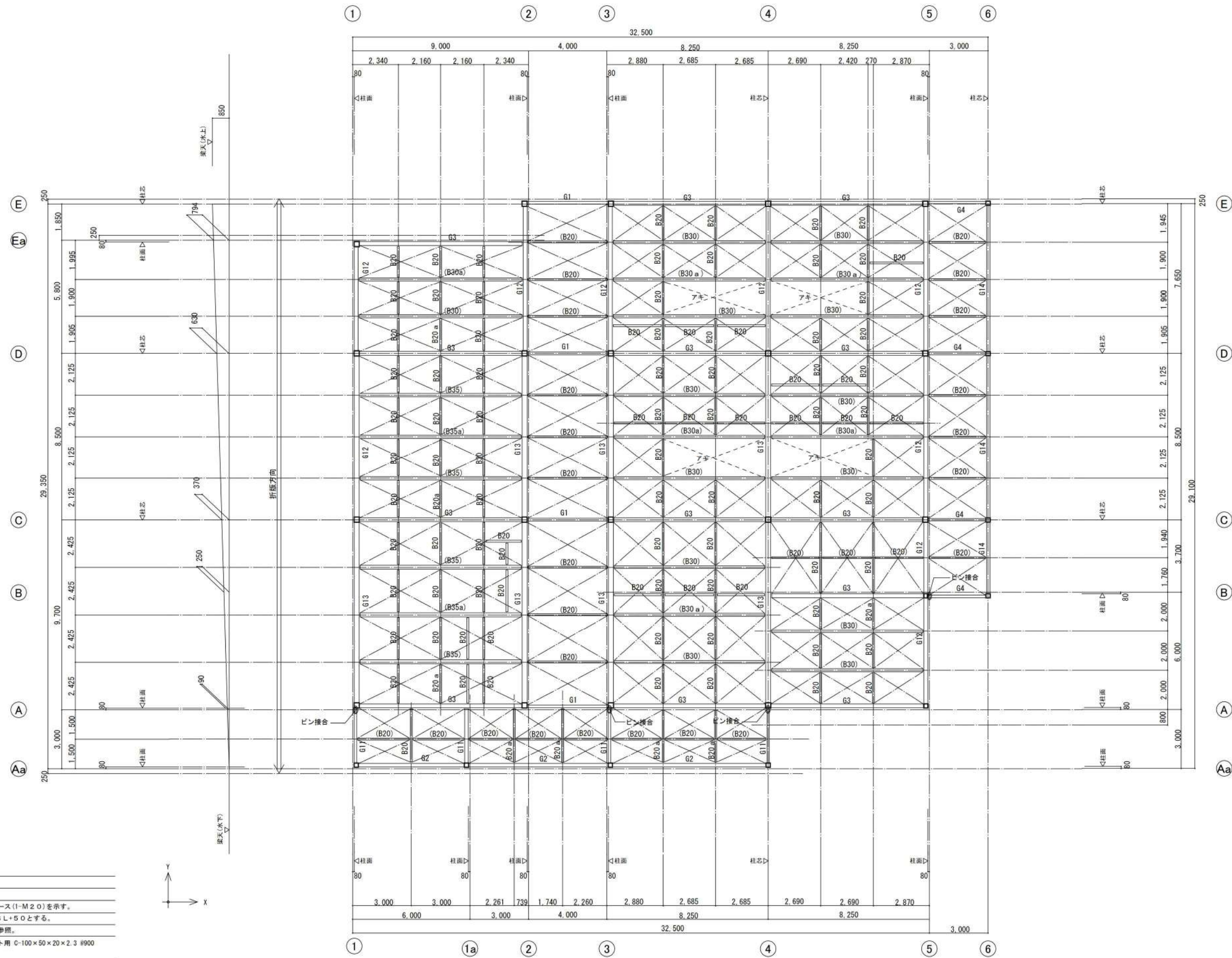
ハ 部配筋詳細図 1:30



イ 部配筋詳細図 1:30



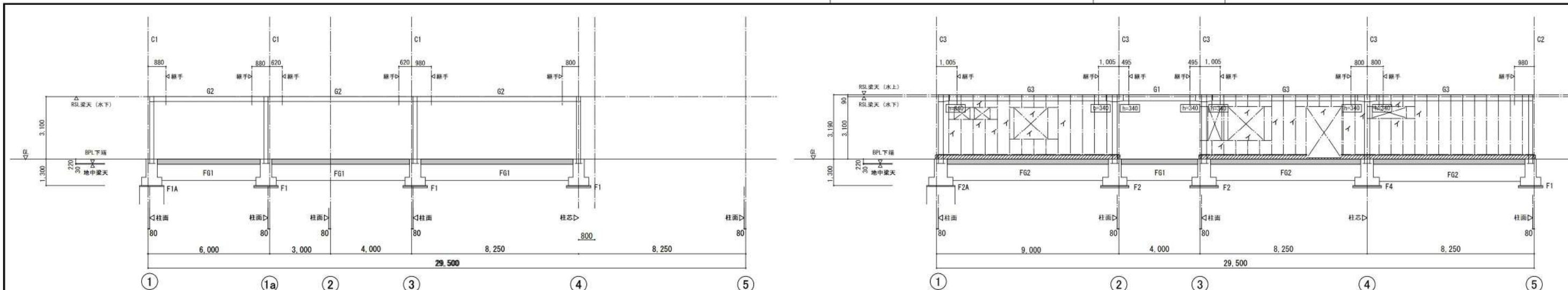
ロ 部配筋詳細図 1:30



※特記事項

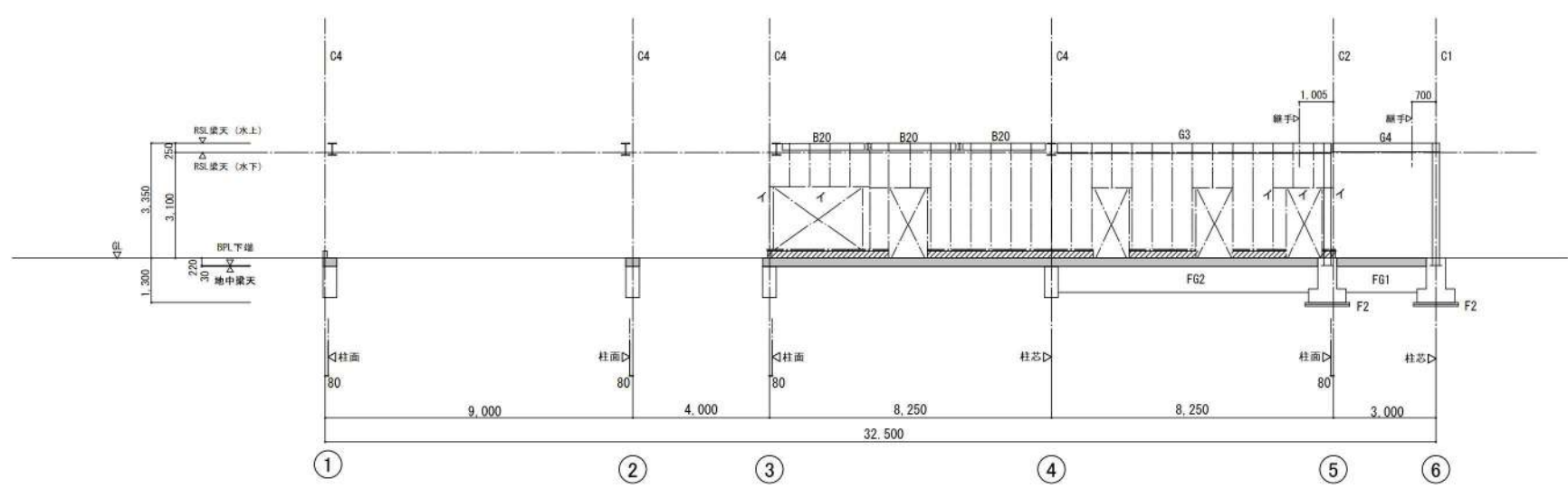
- 印は、屋根ブレース (I-M20) を示す。
- () 内の梁天は RSL+50 とする。
- 大梁継手位置は軸組図参照。
- 折版方向に天吊りボルト用 C-100×50×20×2.3 #900 を設置する。

R 階梁・床伏図 1:100 ※見下げ図

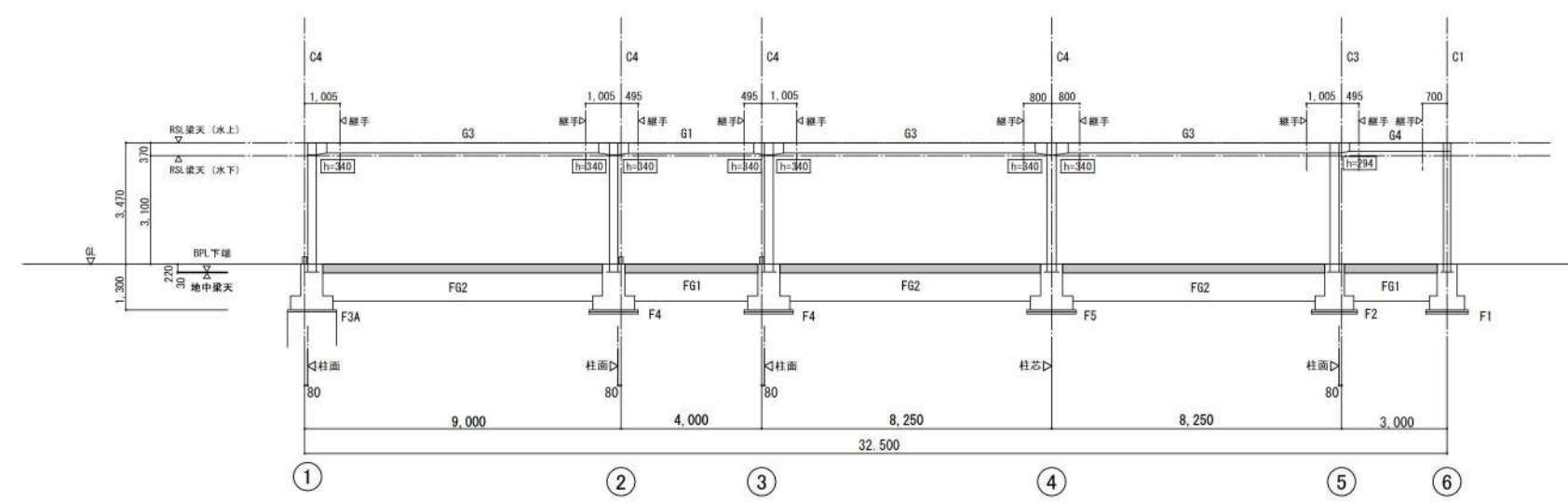


(Aa) 通軸組図 S=1:100

(A) 通軸組図 S=1:100

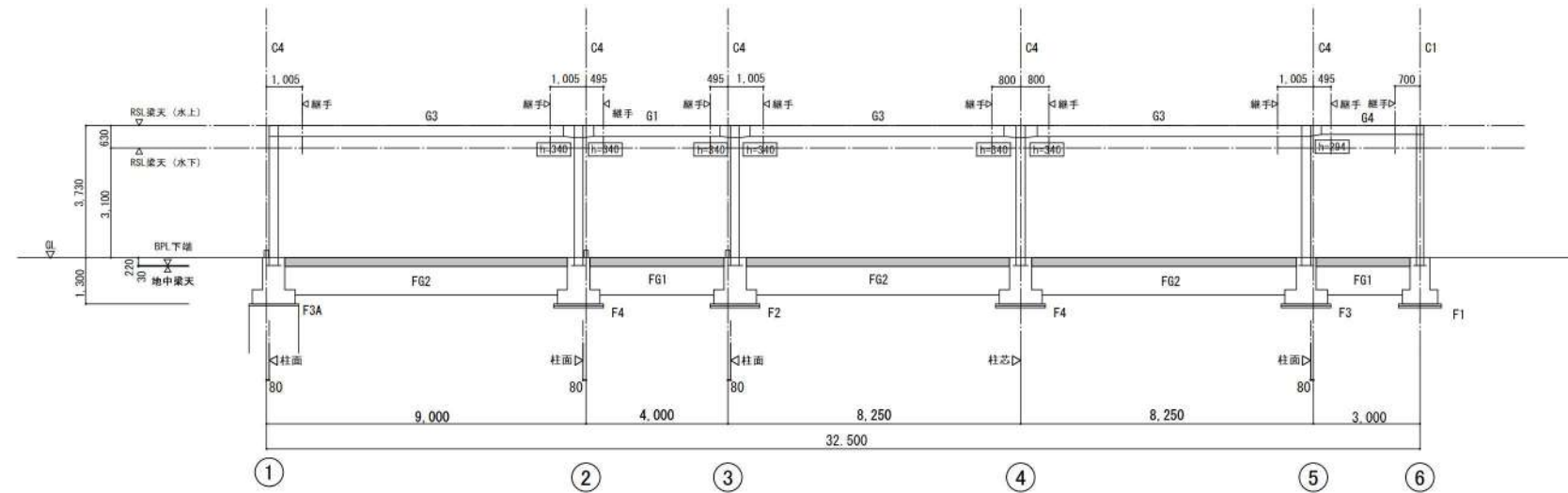


(B) 通軸組図 S=1:100

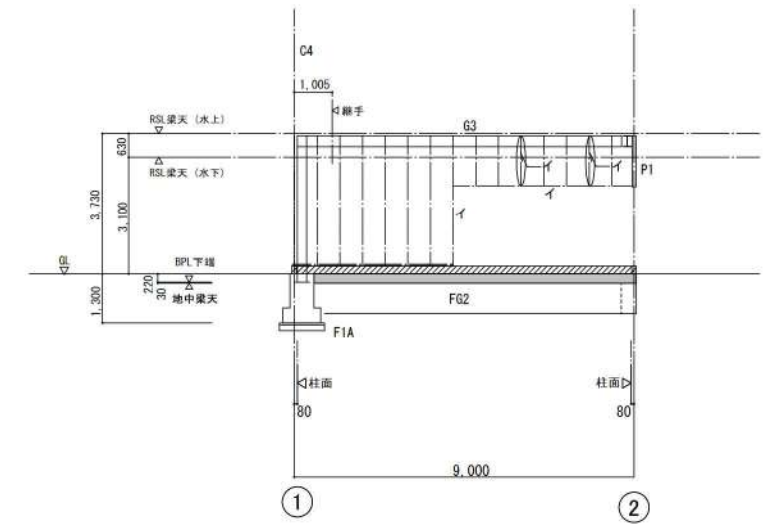


(C) 通軸組図 S=1:100

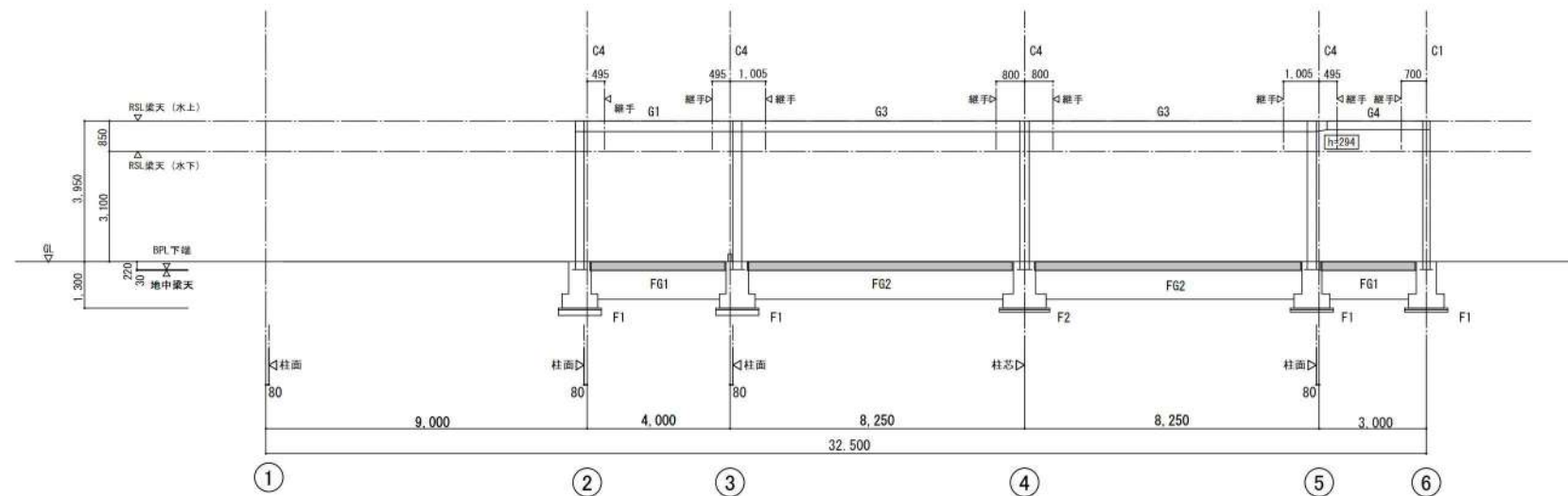
- ※特記事項
- 特記なき限り、地中梁は、GL-250とする。
 - 印は増し打ち部分を示す。
 - 印は隠蔽を示す。
 - [h=***] は、梁端部ハンチセイを示す。
 - 印は縦間線を示す。



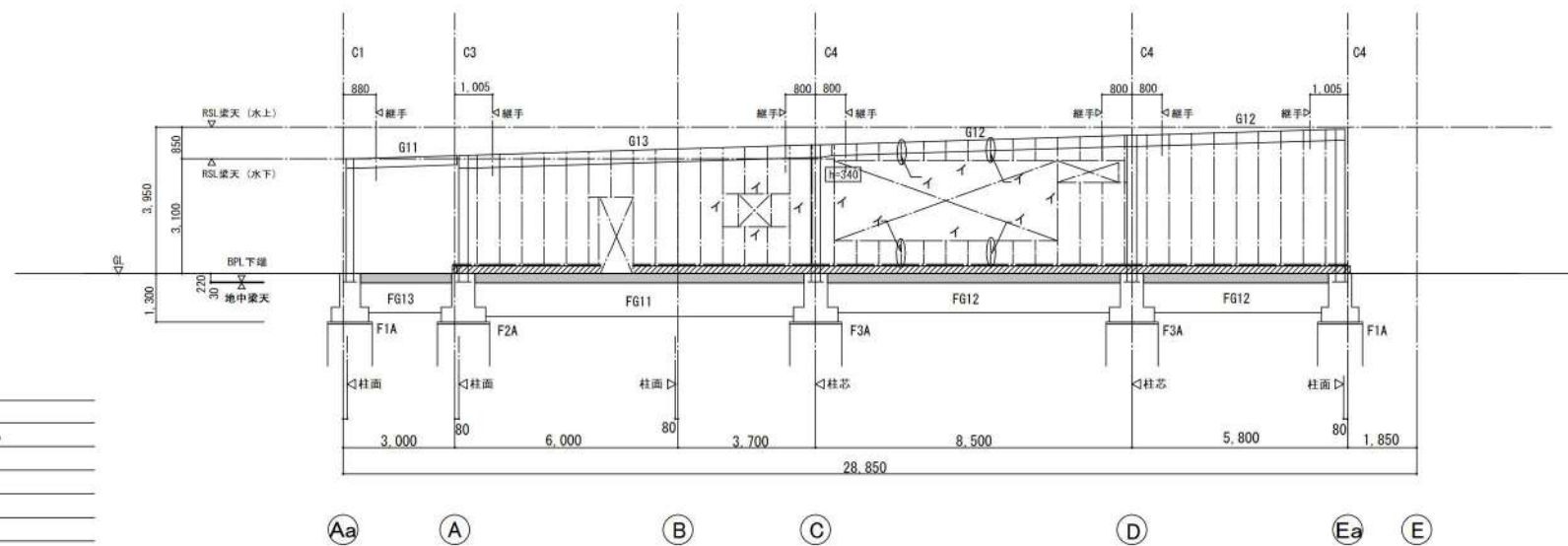
(D) 通軸組図 S=1:100



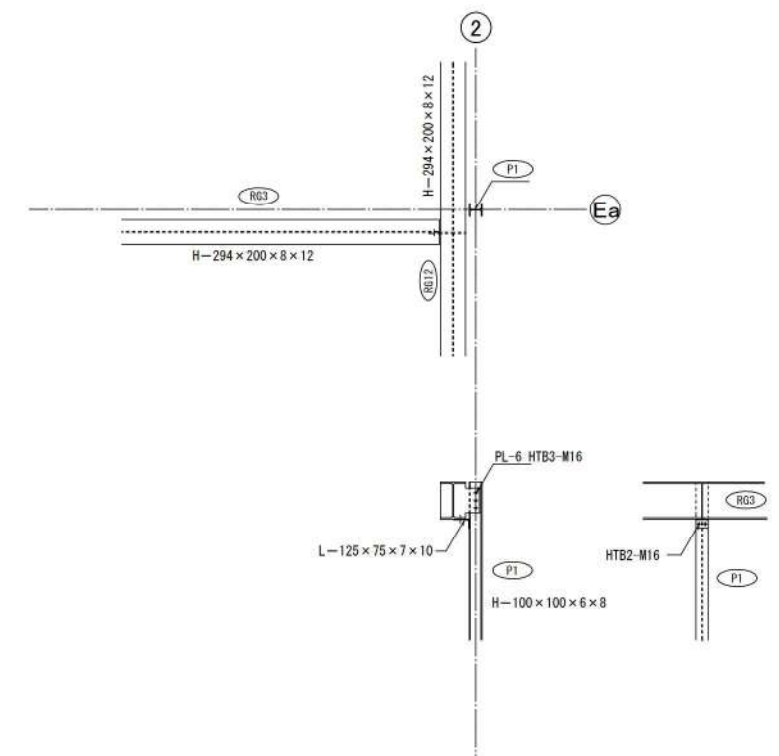
(Ea) 通軸組図 S=1:100



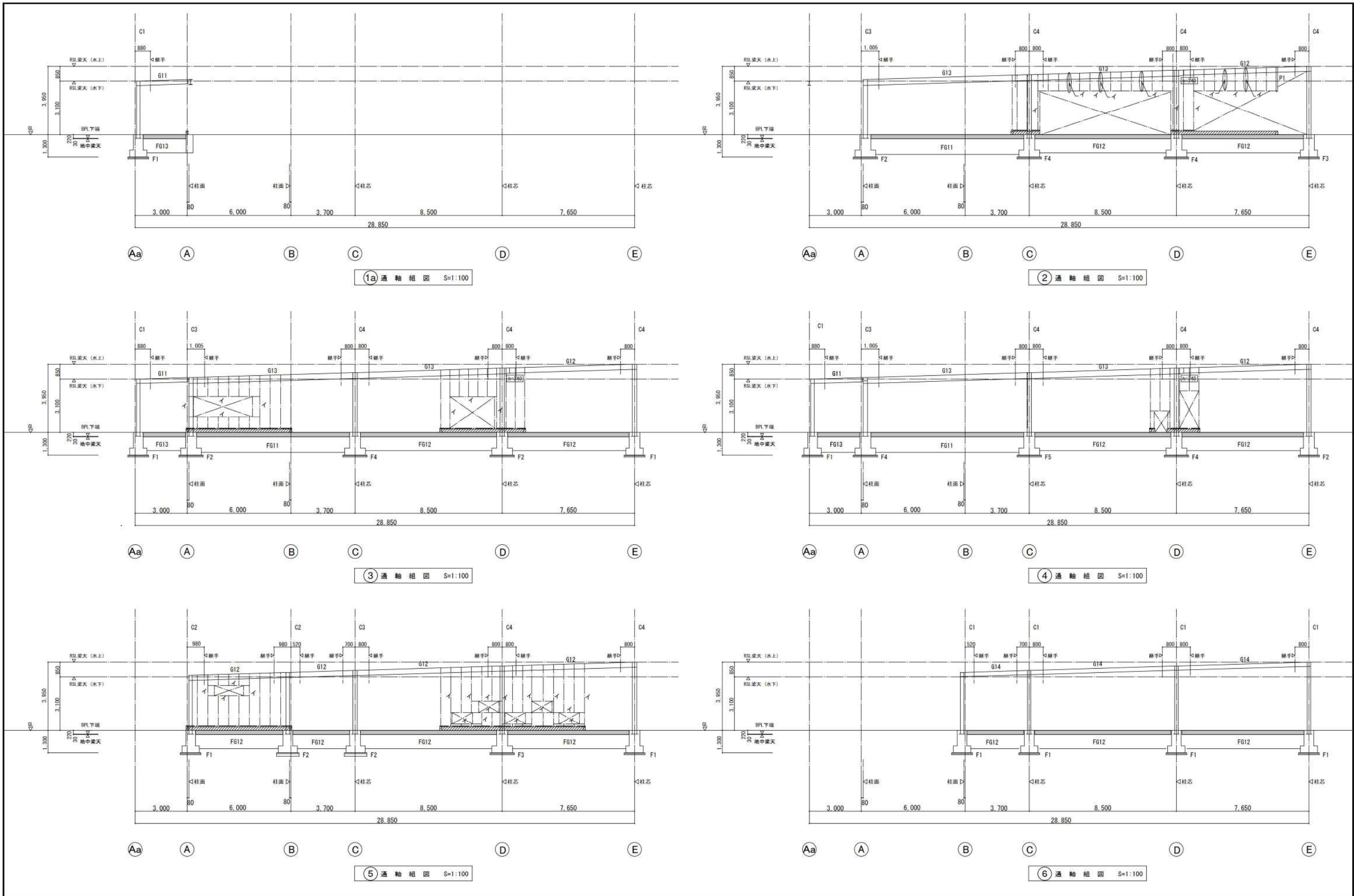
(E) 通軸組図 S=1:100

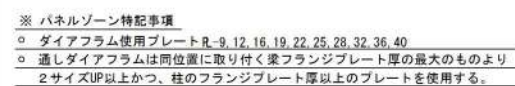
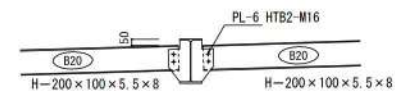


(1) 通軸組図 S=1:100



- ※特記事項
- ・特記なき限り、地中梁は、GL-250とする。
 - ・印は増し打ち部分を示す。
 - ・印は隠蔽を示す。
 - ・[h=***] は、梁端部ハンチセイを示す。
 - ・印は縦間線を示す。





注記

變更	月, 日			



图面名称	
------	--

外 國 經 濟 學 四

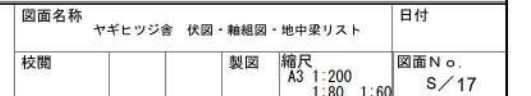
校開	
----	--

製図

縮尺

日付

図面 No.
S / 16



階	符号		G1	G2		
	R 階	種 部 中央部	H-244 × 175 × 7 × 11 間 上	H-250 × 125 × 6 × 9 間 上		
階	符号		G11			
	R 階	種 部 中央部	H-244 × 175 × 7 × 11 間 上			

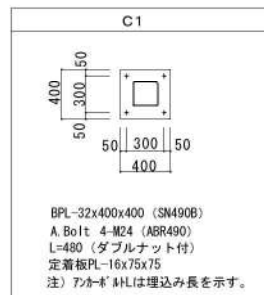
[illegible]

※ HTB-S10T

小梁 リスト	タイプは、「S-03-1 鉄骨工作標準図(1)」の「5-2 小梁仕口 ピン接合」のタイプを示す。
--------	--

符 号	部 材	種 別	継 手				備 考
			プレート	HTB 列×行-径	ボルトピッチ	タイプ	
B17	H-175×90×5×8	SS400	GL - 6	2×1 - M16	60	注	注) 鉄骨詳細図参照
B20	H-200×100×5.5×8	SS400	GL - 6	1×2 - M16	60	A1	
B20a	H-200×100×5.5×8	SS400	GL - 6	2×2 - M16	60	A1	

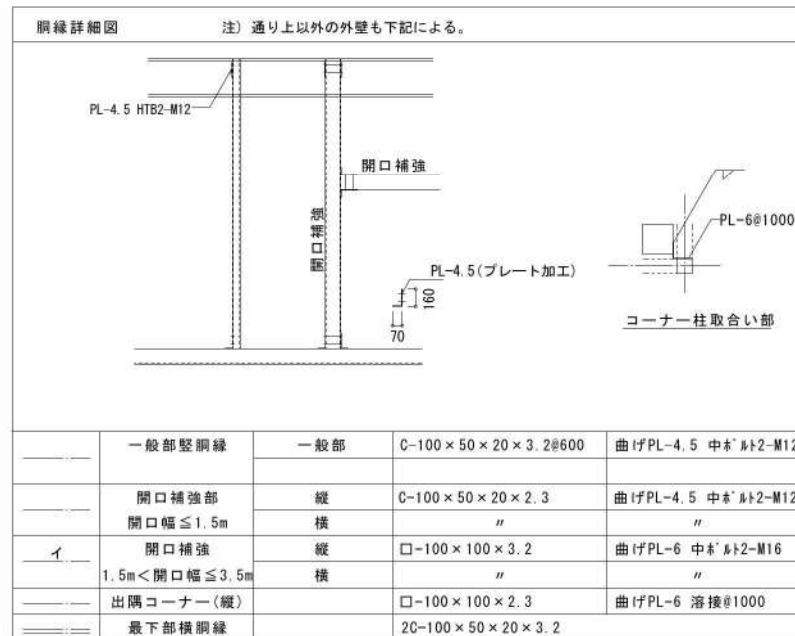
柱脚リスト 1:60



その他の部材リスト

記 号	断 面	備 考	鉄骨種別
閉縁	C-100×50×20×3.2 # 600	G.P.L-4.5 2-M12 (中ボルト)	SSC400
折板	元且ビューティー ビューライルーフ L-100 t=0.6 同等品以上		
折版受け	C-100×50×20×2.3	R階の大梁に設ける	SSC400

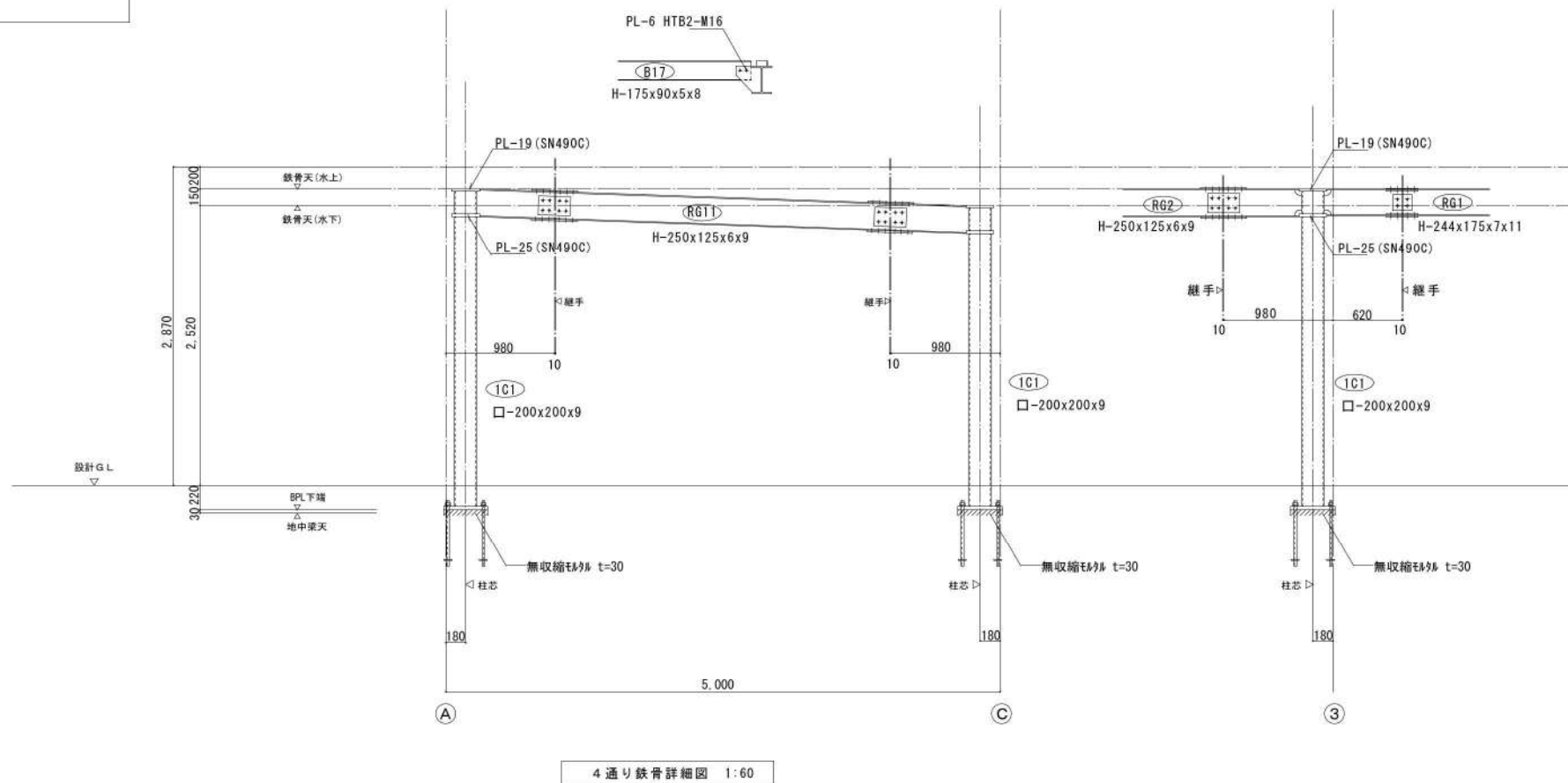
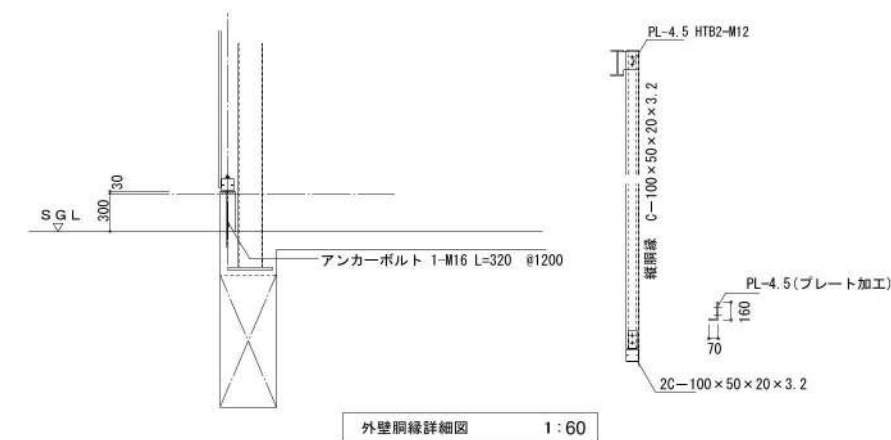
h=170 (ヨドルーフ166 ハゼt=0.8同等品)

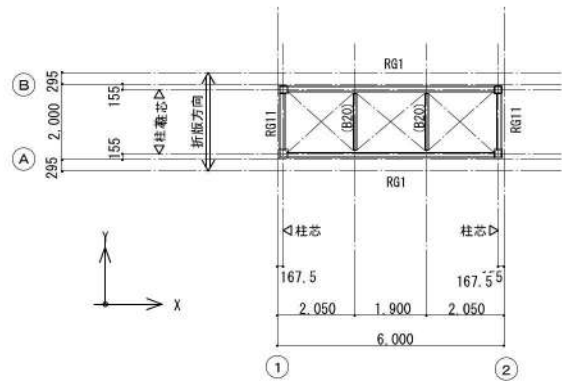


	一般部豎調縁	一般部	C-100×50×20×3.2@600	曲げPL-4.5 中' 斜2-M12
	開口補強部 開口幅 ≤ 1.5m	縦 横	C-100×50×20×2.3 "	曲げPL-4.5 中' 斜2-M12 "
	開口補強部 1.5m < 開口幅 ≤ 3.5m	縦 横	□-100×100×3.2 "	曲げPL-6 中' 斜2-M16 "
	出隅コーナー(縦)		□-100×100×2.3	曲げPL-6 溶接@1000
	最下部横調縁		20-100×50×20×3.2	

	ピッチ	はしあき
M16	60	40
M20	60	40
M22	60	40

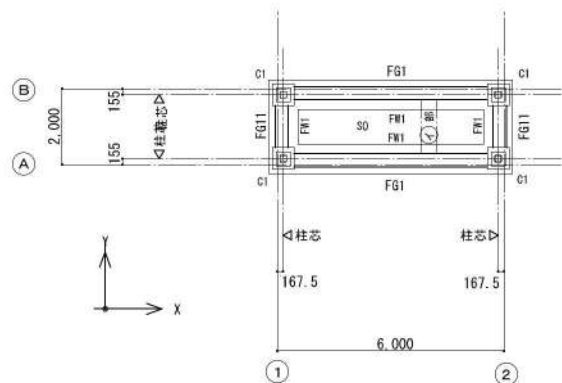
※大梁ウェブピッチは、継手表による
 $H \cdot T \cdot B = S10T$





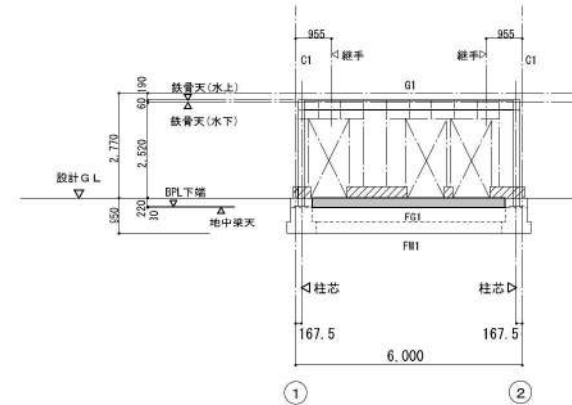
R 階 梁・床 伏 図 1:200 ※見下げ図

- ※特記事項
1. 梁天端は、A通、水上(SGL+2.510)とし、G通、水下=水上(-150)とする。
 2. ()内の、梁天は、RSL+5.0とする。
 3. <印は、床ブレース(1-M16)を示す。
 4. 大梁継手位置は柱芯より800とする。

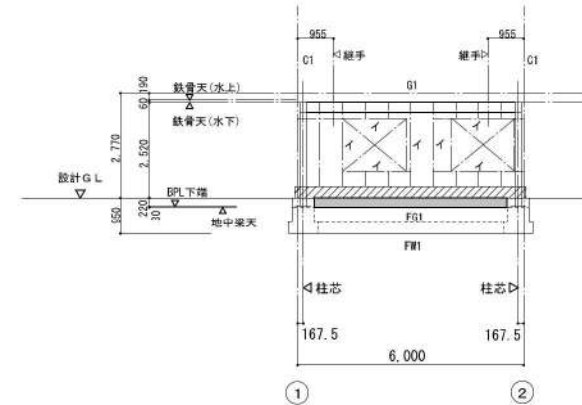


基礎伏図、1 階 梁・床 伏 図 1:200 ※見下げ図

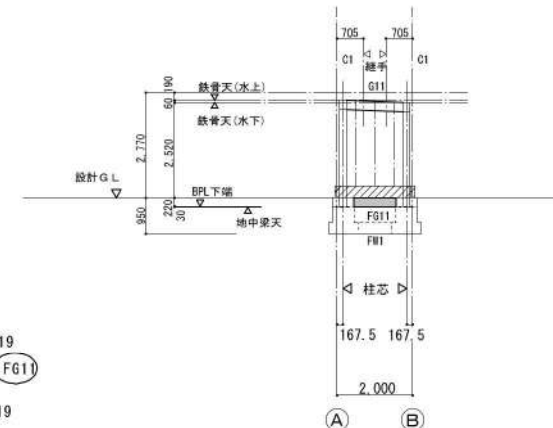
- ※特記事項
1. 特記なき限り、梁天は、GL+2.50とする。
 2. 特記なき限り、スラブ天は、GL+2.0とする。
 3. S0は土間コンクリート t=150 D10@200シングルクロス



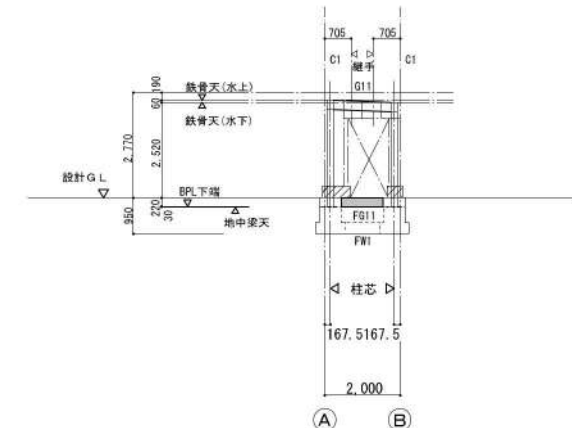
A 通 軸 組 図 1:200



B 通 軸 組 図 1:200

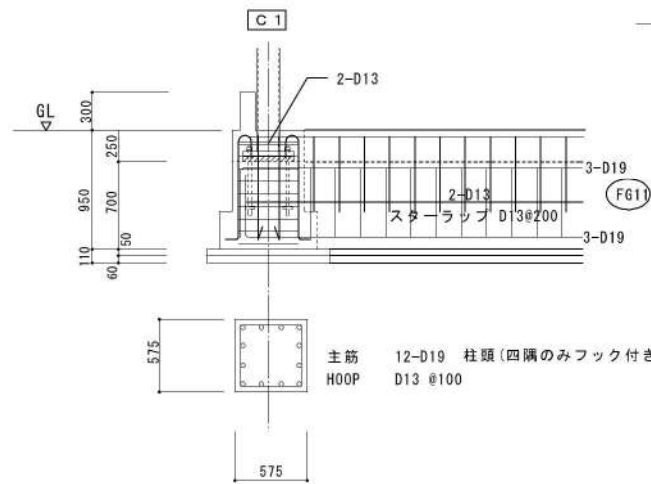


1 通 軸 組 図 1:200



2 通 軸 組 図 1:200

- ※軸組図特記事項
- ・印は増し打ち部分を示す。
 - ・印は腰壁を示す。
 - ・

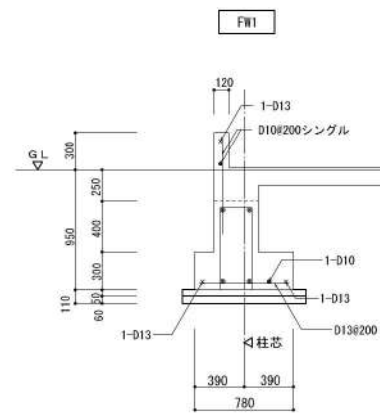


基礎柱配筋図 1:60

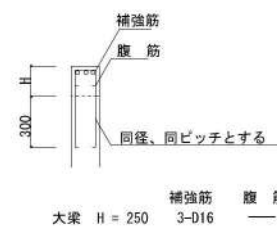
地中梁リスト 1:80

1. $F_c = 24$
2. 巾止筋はD10@1000とする。

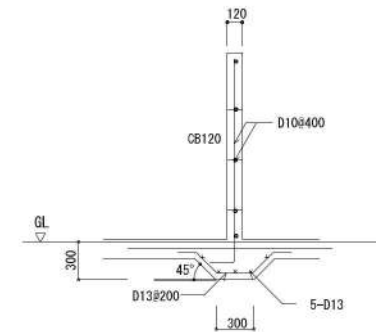
符号	FG1			FG11	
	端部	中央		端部	中央
位置					
断面					
上端筋	3-D19	3-D19		3-D19	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19		3-D19	3-D19
スターラップ	□-D13-@200			□-D13-@200	
腹筋	2-D13			2-D13	
備考					



基礎リスト 1:60



地中梁増打補強筋



部配筋詳細図 1:60

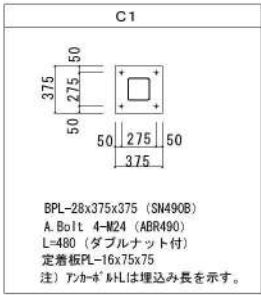
鉄骨柱リスト

階	符号	C1	
柱頭パネルゾーン		□-175×175×6	
1 階		□-175×175×6	
鉄骨種別		BCR295	

鉄骨大梁リスト

階	符号	G1		G11	
R 階	端部	H-250×125×6×9		H-250×125×6×9	
	中央部	同上		同上	

柱脚リスト 1:30

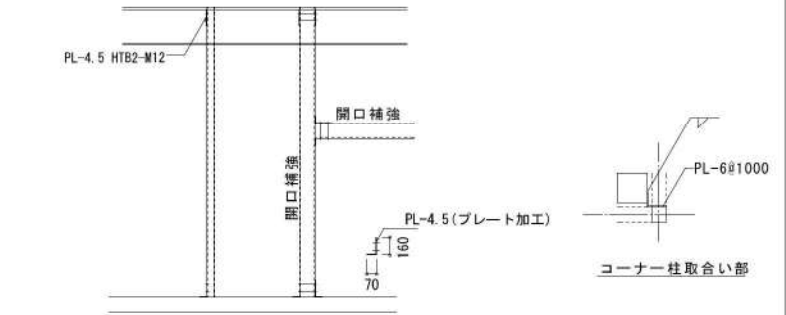


その他の部材リスト

記号	断面	備考	鉄骨種別
隅縁	C-100×50×20×3.2 @ 600	G.P.L-4.5 2-M12 (中ボルト)	SS400
折板	元旦ビュートリー ビュートイルーフ L-100 t=0.6 同等品以上		
折板受け	C-100×50×20×2.3	R階の大梁に設ける	SS400

隅縁詳細図

注) 通り上以外の外壁も下記による。



	一般部縦隅縁	一般部	C-100×50×20×3.2@600	曲げPL-4.5 中ボルト2-M12
	開口補強部	縦	C-100×50×20×2.3	曲げPL-4.5 中ボルト2-M12
	開口補強 開口幅≦1.5m	横	〃	〃
イ	開口補強 1.5m<開口幅≦3.5m	縦	□-100×100×3.2	曲げPL-6 中ボルト2-M16
	出隅コーナー(縦)	横	〃	〃
	最下部横隅縁		2C-100×50×20×3.2	曲げPL-6 溶接@1000

保有力継手表

※ HTB=S10T (全ボルト本数を示す) ・はしあき e=40

断 面	フランジ					ウェブ			
	F 1	F 2	F n	ピッチ	備 考	W 1 (厚さ×横×高さ)	W n	ピッチ	備 考
H-250×125× 6× 9	2F1.PL- 12×125×410	————	24-M16	60	2列	2W.PL - 6×290×170	8-M16	90	ウェブ 2列

	ピッチ	はしあき
M16	60	40
M20	60	40
M22	60	40

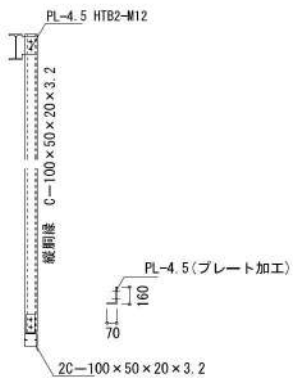
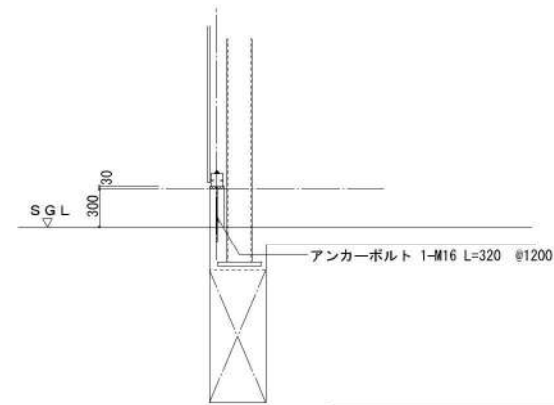
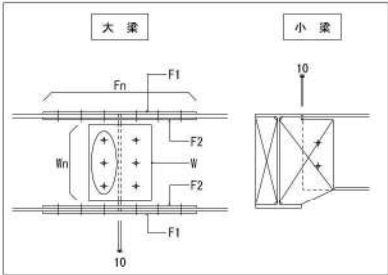
※大梁ウェブピッチは、継手表による
※H・T・B=S10T

小梁 リスト

※ HTB=S10T

タイプは、「S-03-1 鉄骨工作標準図(1)」の「5-2 小梁仕口 ピン接合」のタイプを示す。

符号	部材	種別	継手				備考
			プレート	HTB 列×行×径	ボルトピッチ	タイプ	
B20	H-200×100×5.5×8	SS400	GL-6	2×2-M16	60	A1	



ブレース接合部 丸鋼					
採用	ブレース	羽子板	HTB	GPL	
○	M16	FB-6×60	1-M16	9	SN400

